

平成24年度 病害虫発生予察情報 予報第10号

平成24年8月31日
広島県東部農業技術指導所

1 発生予察情報

(1) 水稲（8月下旬調査）

病害虫名	発生量（平年比）		防除上の注意事項										
	現況	予想*1											
トビイロウンカ	【東部】 並	並	<ul style="list-style-type: none"> 要防除水準は、飛来後第2世代幼虫が株当たり5頭以上である。 トビイロウンカは、ほ場内の分布が偏るため、複数箇所について発生状況を確認する。 収穫時期が9月下旬以降となるほ場では、被害が増加することがあるため、発生に注意する。 成虫期～卵期の期間は、防除効果が十分得られないため、防除は、幼虫発生期に行う。 										
斑点米カメムシ類 （中生品種）	【南部】 並	【南部】 並	<p>■耕種的防除</p> <ul style="list-style-type: none"> 畦畔等に出穂した雑草が繁茂している場合、水稲出穂期前後の除草は、斑点米カメムシ類のエサ場を少なくし、逆にカメムシを水田内に追い込むことになるため、この時期の除草は控える。 <p>■農薬による防除</p> <ul style="list-style-type: none"> カスミカメムシ類が主体の場合の防除時期は、出穂期及びその10日後の間で計2回である。 ホソハリカメムシ等の加害種が主体の場合は、出穂7日後～14日後の間で計2回防除する。なお、2回の防除実施後も本田で発生が散見される場合は、収穫期近くまで加害するので、追加防除を行う。 山際ほ場、また畦畔等の雑草管理が不徹底なほ場では、斑点米カメムシ類の発生が多くなるので、発生状況に注意する。 割れモミの多発が予想される場合は、カメムシ類の吸汁が容易となり斑点米が多くなるので、発生状況に注意する。 <p>■要防除水準</p> <ul style="list-style-type: none"> 本田、乳熟期のすくい取り調査による要防除の判断は、下表を目安とする。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">着色粒混入率</th> <th colspan="2">要防除水準の目安*</th> </tr> <tr> <th>カスミカメムシ類</th> <th>ホソハリカメムシ類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2等以下への格下げ</td> <td>0.1%以上</td> <td>4頭以上</td> <td>2頭以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 捕虫網による20回振りすくい取り</p>	項目	着色粒混入率	要防除水準の目安*		カスミカメムシ類	ホソハリカメムシ類	2等以下への格下げ	0.1%以上	4頭以上	2頭以上
	項目	着色粒混入率				要防除水準の目安*							
				カスミカメムシ類	ホソハリカメムシ類								
2等以下への格下げ	0.1%以上	4頭以上	2頭以上										
	【中部】 並	【中部】 並											

*1 予想は、次回調査時期（9月上旬）までの予想発生量を示す。

2 その他病害虫の発生状況

- 平成24年8月2日付けで、県南部及び県西部を対象にセジロウンカの注意報を発表しました。詳細は、広島県HPに掲載の「平成24年度病害虫発生予察情報注意報第2号」をご確認ください。
- 平成24年7月18日付けで、県内全域を対象に果樹カメムシ類の注意報を発表しました。詳細は、広島県HPに掲載の「平成24年度病害虫発生予察情報注意報第1号」をご確認ください。
(<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/84/24yosatsujyouhouitiran.html>)

作物名	病害虫名	現況	備考
水稲【南部】	コブノメイガ	少	・出穂後に、コブノメイガを対象とした防除は、通常必要ない。
	紋枯病	並	
水稲【県東部】	セジロウンカ	多	・要防除水準は、幼穂形成期～穂ばらみ期の発生が株当たり10頭以上である。
	穂いもち	並	
果樹全般	チャバネアオカメムシ	8月第2半旬以降、フェロモントラップの誘殺数は低位に推移している。	

3 予報の根拠

(1) 水稲（8月下旬調査）

ア. トビイロウンカ

(ア) 巡回調査結果

平年並の発生であった。

(イ) 予察田調査

8月第3半旬に幼虫1頭、第4半旬に幼虫1頭の発生が確認された。

(ウ) 予察灯調査

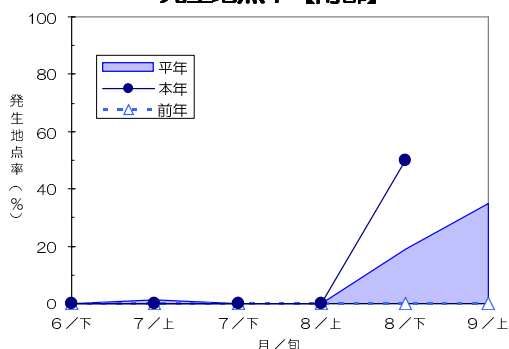
7月第3半旬に1頭、第4半旬に3頭、8月第1半旬に1頭の誘殺が確認された。以降、確認されていない。

(エ) 今後の気象

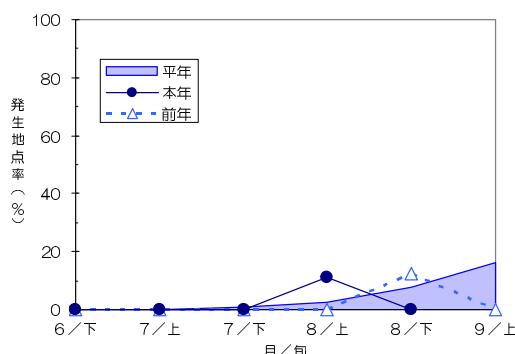
向こう1か月の気温は、高い確率60%と予想されている。

(オ) 調査結果の具体的数値（グラフ）

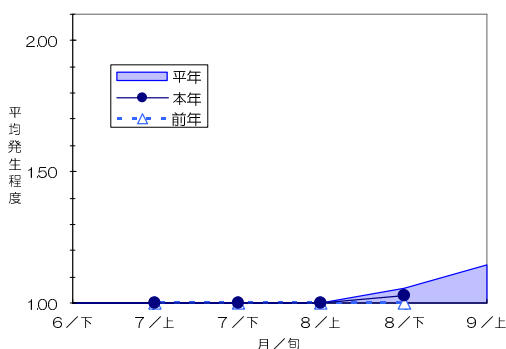
発生地点率【南部】



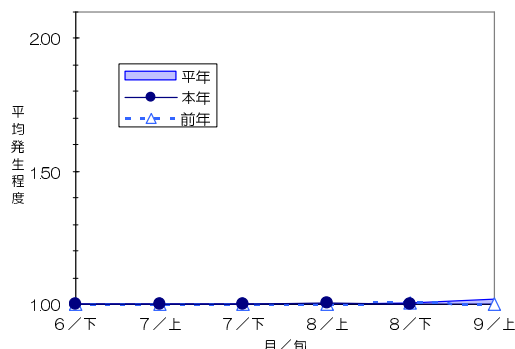
発生地点率【中部】



平均発生程度【南部】



平均発生程度【中部】



イ. 斑点米カメムシ類

(ア) 8月下旬・本田すくい取り調査結果

(a) 南部地帯

カスミカメムシ類は、平年*2並の発生であった。
 ホソハリカメムシ等その他加害種は、平年*2並の発生であった。
 要防除密度ほ場率は46.7%で、平年*2並であった。
 *2 平年は、平成19年を除く過去9年のデータ比較による。

(b) 中部地帯

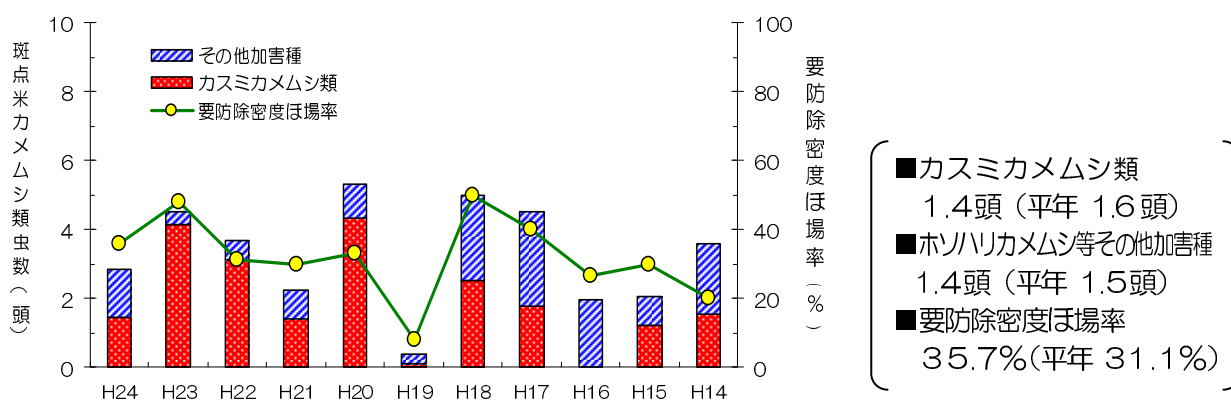
カスミカメムシ類は、平年並の発生であった。
 ホソハリカメムシ等その他加害種は、平年より少ない発生であった。
 要防除密度ほ場率は23.1%で、平年並であった。

(イ) 今後の気象

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%である。

(ウ) 調査結果の具体的な数値(グラフ)

8月下旬・本田すくい取り調査結果(県東部)

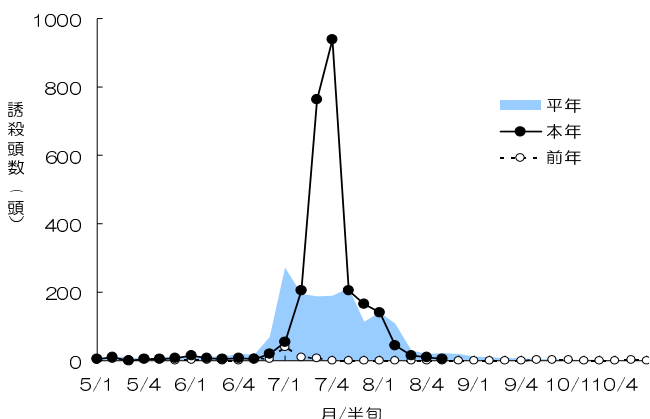


※虫数は、捕虫網による20回振りすくい取りによる

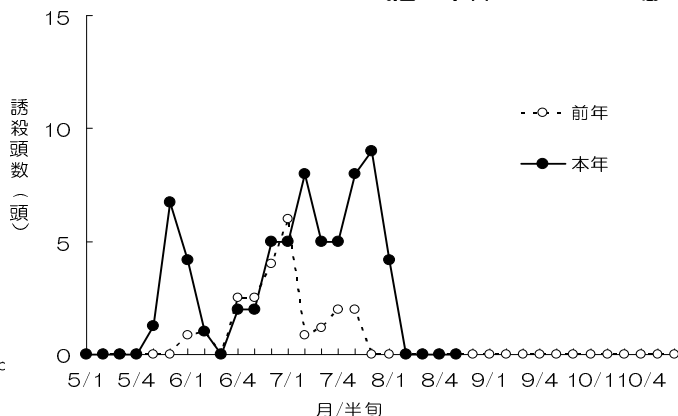
(2) その他病害虫の巡回調査等結果

作物名	病害虫名	地点率 (平年値)	発生率等 (平年値)
水 稻 【南部】	コブノメイガ	0% (66.5%)	被害株率 0% (12.6%)
	紋枯病	75.0% (75.9%)	発生株率 6.0% (18.6%)
水 稻 【県東部】	セジロウンカ	76.9% (70.9%)	発生程度 1.66 (1.19)
	穂いもち	15.4% (14.4%)	発生程度 1.01 (1.04)
果樹全般	チャバネアオカメムシ	1. 現地なしほ場(世羅町本郷) 8月第5半旬までの累積誘殺虫数 2640.8頭(1684.9頭) 2. 現地ももほ場(福山市神辺町) 8月第5半旬までの累積誘殺頭数 66.3頭(前年 22.8頭)	

チャバネアオカメムシにおける
フェロモントラップ調査 (世羅町:なしほ場)



チャバネアオカメムシにおける
フェロモントラップ調査 (福山市神辺町:ももほ場)



4 気象情報

■ 中国地方1か月予報 (8月25日から9月24日)

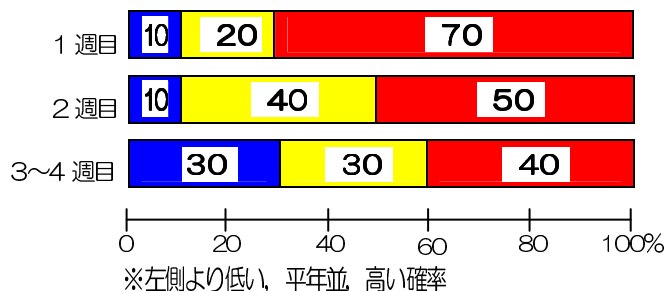
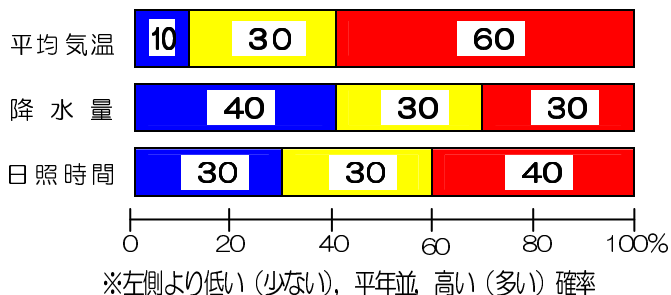
平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率50%です。

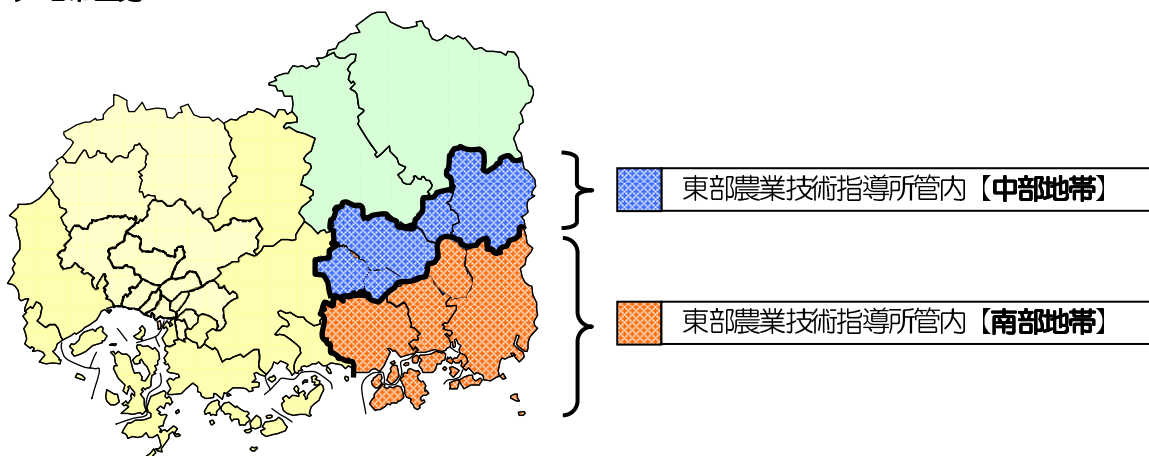
□向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の
各階級の確率(%)

□向こう1か月の気温経過の各階級の確率(%)



5 情報にかかる用語説明等

(1) 地帯区分



地帯区分		該 当 市 町
県東部	南 部	三原市 (久井町, 大和町を除く), 尾道市, 福山市, 府中市 (上下町を除く)
	中 部	三原市久井町, 三原市大和町, 世羅町, 府中市上下町, 神石高原町

(2) 平 年 値

過去10年間（平成14年～平成23年）の平均値です。

(3) 予想発生量・現況

原則として過去10年の数値をもとに気象予報等を参考にして、本年の発生量がどの程度かによって次の5階級に区分して予報しています。

- 多 … 予想発生量が過去10年の最大値と同程度の場合を表します。
- やや多 … 予想発生量が過去10年の2～3番目に多い値と同程度の場合を表します。
- 並 … 予想発生量が過去10年の4～7番目に多い値と同程度の場合を表します。
- やや少 … 予想発生量が過去10年の2～3番目に少ない値と同程度の場合を表します。
- 少 … 予想発生量が過去10年の最小値と同程度の場合を表します。

予想発生量	多	やや多		並				やや少		少
過去10年間の値(多い順)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

なお、現況欄についても予想発生量と同様の方法によって現時点の発生状況を5階級に区分し、表記しています。

(4) 平均発生（発病）程度【トビロウカ、セジロウカ、穂もち】

平均発生（発病）程度1.00は、発生（発病）が無く、数値が高くなるほど発生（発病）株が多くなり、株ごとの発生（発病）程度が甚だしいことを示します。

6 その他の情報

(1) 農薬危害防止について

農薬を使用する際は、使用基準を遵守すると共に周辺環境に注意し、ミツバチなどに被害が発生しないよう飛散防止に努めましょう。

また、農薬は鍵のかかる場所へ保管するなど、農薬による危害防止に努めてください。

(2) 各種情報提供

■病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察調査データ（フェロモントラップ及び巡回調査データ）や広島県病害虫・雑草防除基準が掲載されています。適切な病害虫防除に活用してください。

掲載場所：広島県HP「病害虫防除」

([トップページ](#)> [分類でさがす](#) > [しごと・産業](#) > [農林水産業](#) > [農業](#) > 病害虫防除)

【アドレス】 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/84/byougaicyuuboujyo.html>

■テレホンサービス

農業技術指導所（病害虫防除所）では、病害虫の発生状況をできるだけ速やかにお知らせするため、テレホンサービスを行っています。

気象条件により発生が大きく左右される病害虫や、ウンカ等の長距離移動性害虫の飛来状況などの情報収集に役立ててください。

地 域	電 話 番 号	対 象 市 町
尾三・福山	082-429-3032	三原市, 尾道市, 福山市, 府中市, 神石高原町, 世羅町

■メールマガジン「ひろしま県 病害虫情報お知らせメール」の配信について

広島県では、携帯電話等のメール機能を活用した農作物病害虫等の情報配布サービスを行っています。広島県HP「病害虫防除」に記載の手順で登録していただき、現場指導等に活用してください。なお、詳しい内容は、広島県HP内の「病害虫防除」で確認してください（上記参照）。

掲載場所：広島県HP「ひろしま県病害虫情報お知らせメールの配信について」

([トップページ](#) > [分類でさがす](#) > [しごと・産業](#) > [農林水産業](#) > [農業](#) > 病害虫発生予察情報)

【アドレス】 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/40948.pdf>

(3) 次回予察情報の発表予定

次回の病害虫発生予察情報（予報第11号）の発表予定は、9月上旬です。対象は、だいです。

(4) 今回の病害虫発生予察情報に関するお問合せ先

東部農業技術指導所 病害虫防除チーム（東部病害虫防除所）

【福山市三吉町一丁目1-1、電話084-921-1311（内線3810・3811）】

7 病害虫図鑑

(1) 水稻を加害するウンカ類

短翅型雌成虫は羽が短く、長翅型に比べ多くの卵を産むので増殖能力が高い。

トビイロウンカの短翅型雌成虫は、他のウンカ（セジロウンカ、ヒメトビウンカ）に比べてひと回り大きい。

図1 各ウンカ類の短翅型雌成虫

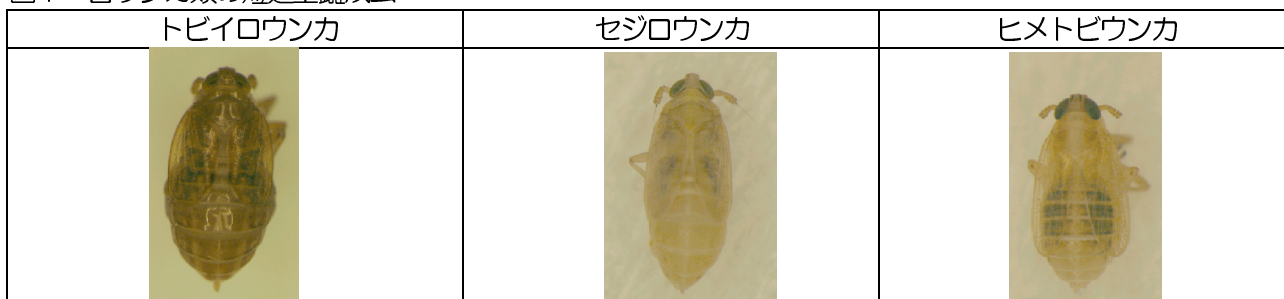
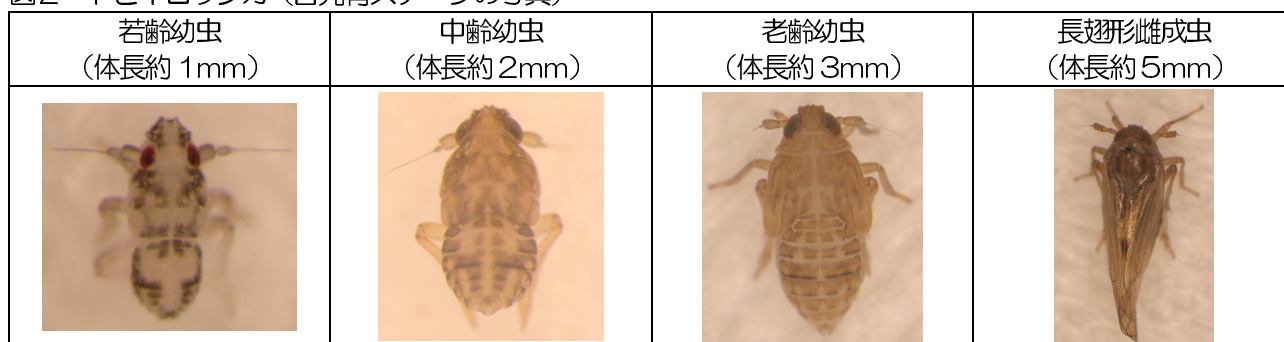


図2 トビイロウンカ (各発育ステージの写真)



(2) カスミカメムシ類と斑点米

カスミカメムシ類は、モミの隙間から米を吸汁するため、モミの柔らかい乳熟期まで被害を与え、尻黒米や黒蝕米といった斑点米を発生させる。防除時期は、出穂期及び出穂期～出穂10日後の間で合計2回。ただし、割れモミが発生する場合は、乳熟期以降も被害を与えるために注意が必要。

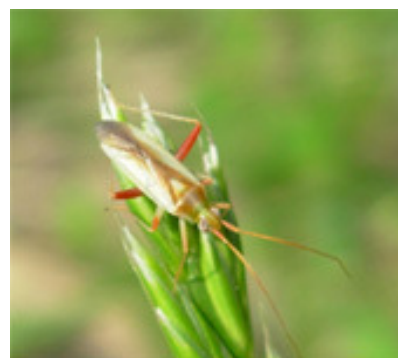


写真 アカスジカスミカメ (成虫)
(代表的なカスミカメムシ類)



写真 上段：カスミカメムシ類による黒蝕米
下段：その他の加害種による標準的斑点米